

「直播コシヒカリ（鉄コーティング）」の栽培ごよみ

収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当たり最高莖数 (本)	550~600
有効莖歩合 (%)	60~65
㎡当たり穂数 (本)	360
平均一穂粒数 (粒)	70
㎡当たり着粒数 (百粒)	250
登熟歩合 (%)	85
玄米千粒重 (g)	23.0

施肥設計 (例)

土壌区分		鉄コート直播コシヒカリ (22-5-20)	
		側条施肥による施用量	
沖積	砂壤土	27	32
	壤土	27	32
	粘質土	18	22

雑草防除体系

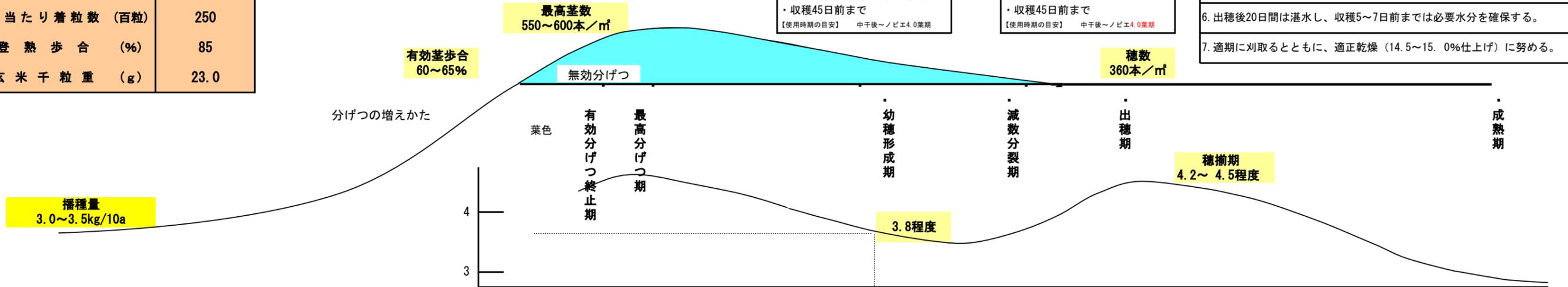
ペルーガ1キロ粒剤
 ・散布量 1kg/10a
 ・播種同時、散布機で施用
 ・ノビエ3.0葉期まで
 ・収穫90日前まで

アケシズMX1キロ粒剤
 ・散布量 1kg/10a
 ・ノビエ4.0葉期まで
 ・稲1葉期を確認後に湛水散布
 ・収穫45日前まで
 【使用時期の目安】 中干後~ノビエ4.0葉期

アトカラSジャンボMX
 ・散布量 20個(1袋)/10a
 ・稲4.0葉期を確認後に湛水散布
 ・ノビエ4.0葉期まで
 ・収穫45日前まで
 【使用時期の目安】 中干後~ノビエ4.0葉期

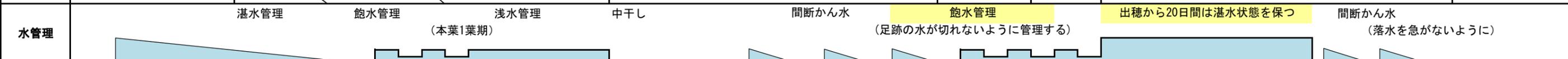
栽培のポイント

1. 均一な苗立ちを確保するため、ほ場の均平に努める。
2. 播種量は3.0~3.5kg/10aとし、㎡当たり60本程度の苗立ちを確保する。
3. 適正な中干しにより根の活力を高めるとともに、過剰分けつを防ぐ。
4. 幼穂形成期の葉色を3.8に誘導し、以降は飽水管理で葉色低下を防ぐ。
5. いもち病の発生に注意し、防除を徹底する。
6. 出穂後20日間は湛水し、収穫5~7日前までは必要水分を確保する。
7. 適期刈取るとともに、適正乾燥 (14.5~15.0%仕上げ) に努める。



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
草刈時期		★	★		★	★			
生育区分		播種期	出芽・苗立期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期	収穫期
水管理		湛水管理	飽水管理 (本葉1葉期)	浅水管理	中干し	間断かん水	飽水管理 (足跡の水が切れないように管理する)	出穂から20日間は湛水状態を保つ	間断かん水 (落水を急がないように)

←本田防除以降、収穫までは草刈りをしない→



栽培管理のポイント
<ul style="list-style-type: none"> 浸種積算 60度の種子に鉄コーティングする 種子は乾籾で 10アル当たり 3.0 ~ 3.5 kgとする 基本窒素量は移植より10アル当たり0.5 ~ 1.0 kg減肥する 出芽揃いを良くするため、ほ場の均平に努める 播種後5~7日間は湛水管理を行う 播種同時または直後に除草剤を散布する 施肥溝が残る程度のほ場の硬さで播種する イネ 1.5 ~ 2.0 葉期に2回目の除草剤を散布する 6月上旬に溝を掘り、かん排水の効率化に努める 6月中旬頃、葉いもちの予防剤を散布する 中干しにより、根の活力を高めるとともに、過剰分けつを抑制する 中干し後は、間断かん水を行う 幼穂形成期の葉色は 3.8 程度に誘導する 幼穂形成期以降は飽水管理を行う 穂いもちの出穂直前・穂揃期の2回防除を確実にを行う カメムシ類の穂揃期防除を確実にを行う 穂揃期から20日間は湛水状態を保つ 穂揃期の葉色は 4.2 ~ 4.5 に誘導する 刈取り予定日の5~7日前までかん水する フェーン時は事前かん水して、品質低下を防ぐ 籾の黄化率 85 ~ 90 %程度で適期に刈取る 仕上げ水分 14.5 ~ 15.0 % 1.9 mmのふるいで選別する